

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	筑波学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ツクバガクインダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	経営情報学部 経営情報学科・ビジネスデザイン学科
	担当教職員名・役職	教員:准教授 亀田千里職員:学生支援グループ就職支援室 主任 清水慶太、大塚草一
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	35
	受入企業等数	27
	受入企業等名	(株)バトルヒクマ、木内酒造合資会社、憧れ花のアトリエ、(株)筑波学園ホテル、(有)モーハウス、(株)ケースホールディングス、(有)ワタナベ工業、ネットヨタつくば株式会社、株式会社羽田発条製作所、いばらきコープ生活協同組合、(株)レオパレス21、(株)ウェルシード、(株)カスミ、常陽通商(株)、トヨタカローラ南茨城(株)、(株)ヒューマンシステム、(株)コックス、SmartSolutions(株)、笠間市役所、株式会社エス・エス・アイ、筑波都市整備(株)、(有)つくば精機、(有)茨城ビデオバック、(株)チュチュアンナ、(株)AHB、(株)ソニー、一般社団法人日本旅行業協会
	インターンシップの分類	4.他県をまたぐ広域インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	プログラムの一例として、店舗等の現場や営業同行などを通じ、web上では知る事ができない様々な体験をする事はもちろん、グループワークなどを通じて、サービスの改善点などを洗い出し、社員の方々に改善提案を目的としたプレゼンテーションを行った。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次~4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	履修可能年次は2年次からで、選択必修科目として開講している。本科目では、1社40時間以上のインターンシップに参加する事を単位修得要件としており、実際には企業活動に参加する事によって、社会で仕事をする事の意味を自覚する事を授業の到達目標としている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中に、教職員が適宜、受け入れ企業に対して学生の体験の様子を確認するなどし、企業側から要望等があった場合は、学生を呼び出し指導するなどして、円滑に就業体験が行われるように尽力している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	就業体験前に90分×3コマの事前学習、担当教員との事前面談を実施している。具体的には、インターンシップの意義、参加する事のメリット、ビジネスマナー、インターンシップ先の探し方などの講義に加え、参加をするにあたっての抱負や到達目標を事前面談で確認している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ期間中に記入する実習日誌、受け入れ企業に記入いただいた評価表を基に、担当教員と事後面談を実施し、インターンシップの振り返り、到達目標の達成状況などを確認している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中に、教職員が適宜、受け入れ企業に対して学生の体験の様子を確認するなどし、企業側から要望等があった場合は、学生を呼び出し指導するなどして、円滑に就業体験が行われるように尽力している。

要素④	4-1. インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1. はい
	4-2. 該当する教育的効果を測定する仕組み	1. アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2. 以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄) 4-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの参加前に、参加にあたっての抱負や到達目標を設定し、インターンシップ期間中には、学生は毎日、実習日誌にその日行った業務内容や気づきなどを記入。終了後には、到達目標の達成状況などの確認はもちろん、意識の変化などについても担当教員と事後面談時に確認を行っている。
要素⑤	5-1. 一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1. はい
	5-2. 該当する実施期間	1. 連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2. で「1. 連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2. で「2. 事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2. で「3. 複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2. 以外の実施期間の内容(記述欄) 5-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	単位修得要件は、5日間(1社につき40時間以上)の就業体験が必要としており、H28年度の場合、もっとも長いケースで、9日間のインターンシップを行った。
要素⑥	6-1. 大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1. はい
	6-2. 該当する大学等と企業の協働取組の内容	3. 企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4. 受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2. 以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	評価にあたり、受け入れ企業には評価表の記入をお願いしており、出席日数、欠席日数、遅刻回数、早退回数、勤務総時間数、勤務態度、業務への熱意、業務理解、総合評価を記入いただき、評価表を基に、参加学生と担当教員とで振り返りの事後面談を行っている。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	筑波学院大学
	担当部署名	学生支援グループ 就職支援室
	担当者役職名	主任
	担当者氏名	清水慶太
	電話番号	029-858-4814
メールアドレス	syuusyoku@tsukuba-g.ac.jp	